

令和6年度佐賀県西部地区(伊万里市)における病院看護職確保対策推進事業
「看護職研修会 in 伊万里」での参加者の質問に対する回答

【佐賀県医務課医療人材政策室】

●看護大学では地元が異なるという背景があり、現状就職に至っていない。

教育機関への働きかけなどについて県の働きかけを知りたい。

→○ 県内看護学校卒業生の県内就職率を高めるための方策を検討するため、今年度(R6年度)、看護学生や看護教員にヒアリング調査及びアンケート調査を実施しました。

○ アンケート調査は分析中ですが、ヒアリングの結果として、

- ・看護学生は就職先選定にあたり医療機関の雰囲気や人間関係を重視する傾向にあること
- ・看護学生は実習以外で県内医療機関のことを知る機会に乏しいこと

などの意見を伺っています。

○ こうしたヒアリング調査の結果等も踏まえ、県では、来年度(R7年度)から、将来を担う看護人材の確保と看護学生の県内定着を図るための新たな取組として、

- ・高校進学前までに看護職のイメージを持ってもらい、看護職を将来の職業選択の一つとしてもらえるよう、小中学生を対象とした「看護の仕事体験」
- ・佐賀県への愛着や仲間意識を醸成し、県内就職を促進するため、県内の看護学生と県内で活躍する若手看護師との「交流会」
- ・県内の看護学生や教員に、県内医療機関の情報や魅力を直接届けるため、県内医療機関に特化した「合同就職説明会」

を実施することとしています。

●EPA以外の外国人の活用について、佐賀県としてどのように考えているか知りたい。

→看護職の働く場は、医療分野に限らず、介護や福祉分野等にも広がっていますが、少子化等により、新規の看護職員の確保が難しくなっているため、外国人の方に活躍してもらうことは必要であると考えます。

外国人の方が看護師として国内で就労するには、

- ①日本の看護学校を卒業して看護師免許を取得する
 - ②外国の看護師免許を持っている外国の方が日本で受験資格認定を受け、看護師国家試験に合格する
 - ③EPA外国人看護師候補者として研修や就労を行いながら看護師国家試験に合格する
- の3つの方法が考えられ、EPA以外の方法も用意されている状況ですので、医療機関等において積極的に取り組んでいただければと考えています。

●若年層への看護の魅力発信に関する取り組むメンバーの平均年齢を知りたい。

→例えば、看護ふれあいフェスタについては、運営委員にて準備から運営まで取組を進めており、メンバーは若手からベテランまで幅広い看護職で担当していただいています。年齢はお聞きしていないので平均年齢は把握しておりません。

●人材が西部地区からほかの地区に流出する理由は何ですか？

→分析をしていないので具体的な要因は分かりません。